

さになつてゐるのを見、又あらゆる時代の退化現象を見ることが出来る。

上皮の肥大が軽い時には、上皮細胞が少しふくれて光つたものが一杯に入つてゐる。そして寄生蟲の附いてゐる所だけが主に肥大してゐる。初めの内は隣りの細胞は犯されてゐないが次第に細胞の崩壊が起り、細胞の境界が消失するか不分明となる。原形質には大小の隙が出来てくる。最初に核が退化し始め次に原形質の崩壊が起るとは云へ屢々両者が同時に起ることがある。肥大した細胞の核は一部だけ崩壊すると既に染りが悪いといふことによつてその變化が明かに分る。多くの核は周圍だけ染まつて内部は染らない、かういふ核は肥大して居て節が生じ仁は消失してゐる、そして多くは細胞の縁に押しやられて薄暗い塊の見える。また犯されない内部の上皮細胞が肥大してゐるといふことは間接の刺戟又は毒素の刺戟の爲に段々全體が犯されたのだといふことによつて説明することが出来る。

膀胱の間隙に濃く染まつた粒狀の塊を見ることがあるが、これは崩壊した上皮細胞の殘物である。尤もかういふものが思つた程に目につかないのは、細胞が崩壊するとすぐに *Myxidium* が吸収して消化してしまふからである。

犯された爲に生ずる刺戟が長く續くとその下の層にまで反應が起る、併し余程ひどく犯されないと真皮と結締組織には變化が起らない。それはかういふ組織は自身に

強い抵抗力を持つてゐるからである、併し遂には *Pia* と下層粘膜炎は厚くなり結締組織纖維が増して来る。そして組織中に赤血球を見ることが出来る。真皮と下層粘膜炎とは普通より脈管が多くなり、毛細管は太くなつて血液が一坏となる。但し脈管の破裂や炎症は見られなかつた。そしてその二層には白血球の侵入が見られ烈しく犯されたものに於ては上皮細胞の間に淋巴球を明かに認めることが出来た。

筋組織は犯されず漿膜には異狀がなかつた。下層漿膜の血管は少し變化を表はしてその壁が厚くなつてゐた。

結論—烈しく *Myxidium* に犯された *Esca* も外的には何等病的の現象を表はさないし、又肉眼でその膀胱を見た時には見逃す位の變化が起らない様ではあるが、實際に於ては上皮を全然破壊し、それに連續してゐる組織をその間接の刺戟によつて可なり犯してゐるものである。

## 雜報

### 日本哺乳動物學會

東京帝國大學教授渡瀬博士主唱の下に哺乳動物の研究を糾合する日本哺乳動物學會が設立せられまして、第一回の會合を本年一月二十五日(木曜日)午後五時から東京華族會館に開き、渡瀬庄三郎、田子勝彌、内田清之助、黒田長禮、小林桂助、岸田久吉六氏出席。會則及研究事

項などに就き協議し。第二回の會合は五月九日(水曜日)午後五時から一つ橋學士會假會館で催し、前記六氏出席渡瀬、田了兩氏から毛皮貿易の歴史で有名なレザノフ來朝の繪卷物、生島常敬著捕鯨覽笑錄、勇魚取繪詞、鯨史稿、魚鑑の珍書、黒田氏から同氏が本誌や米國の哺乳動物學雜誌 (Journal of Mammalogy) に於て發表されたヤマネコ、ツシマテン、イタチ、シベリアイタチ、コエゾイタチ、エゾモモンガ (*Pteromys russicus orii*)、ヤクシマモグラ、タイワンハタネズミ、ツシマカヤネズミ、(*Micromys minutus uohii*)、キクガシラカウモリ、コキクカシラカウモリ、ユビナガカウモリ等の標品を供覽せられ其の後、渡瀬博士は黒貂飼養に就て一場の講演を試みられました。此後も毎年教會會合をして圖書標品の披露、講演、討究を繼續する筈でありますし、追つては、機關雜誌をも發行する豫定であります。

同會の研究事項として大體協議済みとなつて居る所を紹介しますと、一、日本産哺乳動物の目錄編纂。二、哺乳動物標品寫眞及精確な圖畫の蒐集。三、哺乳動物に關する世界の文書及目錄の蒐集。四、哺乳動物の分類、解剖、發生、生理、人類との系統的關係其他動物學上一般の基礎的觀察。五、日本産哺乳動物の生態學即ち各種に就きて其の蕃殖、成長、餌料、外敵、住處、移住、其他一生を通じて現はす諸現象の研究。六、日本及大陸棲哺乳類現時の地理的分布及び其の地理的趨異の比較。七、日本の各地に發見せられる哺乳類化石の研究及地方

により比較的近世まで存在したけれ共、現今は既に其の跡を没して居る所の獸類の遺蹟記録等の蒐集。八、日本を中心として遠近海岸に棲息する海獸の研究。九、東洋特に日本に於ける在來家畜の系統研究。十、前記數項目に關して歐米學者の材料を得るのに困るもので、日本學者の割合容易に研究に従事し得るものに對しては特別に注意を拂ふこと。十一、日本及支那古來の文献に現はれて居る哺乳動物名稱の學術的同定。十二、毛皮動物、其他の野生獸類の養殖法研究。十三、毛皮の研究。十四、鼠族其他の哺乳動物であつて特に農業、林業、衛生等に交渉の深いものの研究。十五、狩獵動物の研究。十六、動物園博物館等に於ける哺乳類の展覽及監理法。十七、天然記念物として保存すべき哺乳動物及び其の方法などの討究であります。

#### 四月例會記事

東京寄生蟲學集談會第二回講演會と合同の上、四月二十八日午後一時半より本郷動物學教室に於て開催。當日の講演者並に演題左の如し。

一、痕跡的腹吸盤を有する所謂モノストマの二種に就て……………理學士 森下 薫君

モノストマはヂストマより誘導せられたるものなりとは既に唱へらるゝ所にして、現今モノストマの部類に編入せらるゝ種類に腹吸盤を有するものも二三知らる。然るに余はモノストマにても最も模型的とせらるゝ *Cyctoscaelum* 屬に於て然も其二種に痕跡的なれども腹吸盤を發